

2026 年 6 月 29 日
フューチャー株式会社
(東証プライム:証券コード 4722)

フューチャー、自然言語処理分野の主要国際会議「ACL2026」に論文が採択

フューチャー株式会社(東京都品川区、代表取締役社長:谷口友彦、以下フューチャー)に所属する AI 戦略推進グループ リサーチエンジニア岸波洋介、藤井諒、森下睦の共同執筆した論文が、自然言語処理分野の主要国際会議である「ACL2026」^{※1}の Main Conference に採択されました。

ACL2026 (The 64th Annual Meeting of the Association for Computational Linguistics) は、自然言語処理分野における世界最大の学会である ACL (Association for Computational Linguistics) が主催するカンファレンスです。2026 年 7 月 2 日から 7 日にかけて米国・サンディエゴで開催される「ACL2026」において、本採択論文について発表を行います。尚、本研究は国立大学法人奈良先端科学技術大学院大学との共同研究の成果です。

FUTURE

■採択論文

Revisiting Non-Verbatim Memorization in Large Language Models: The Role of Entity Surface Forms
Yuto Nishida, Naoki Shikoda, Yosuke Kishinami*, Ryo Fujii*, Makoto Morishita*, Hidetaka Kamigaito, Taro Watanabe * 当社所属

<https://aclanthology.org/2026.acl-long.2178.pdf>

【研究概要】

大規模言語モデル(LLM)は様々な知識を記憶していますが、本研究では『LLM が記憶している知識は、正式名称・別称・略称など、どの呼び名でも同じように取り出せるのか』という問いを検証しました。検証においては、Wikipedia に収録されている人物や組織などの別表記を用いた新しい評価データ RedirectQA を構築し、多数の LLM を評価しました。その結果、同じ人物や組織について尋ねても、呼び名が変わるだけで LLM の回答が変わってしまうことが少なくないことを確認しました。このことから、信頼できる LLM の評価では、多様な呼び名への対応も重要な観点となることが見えてきました。

フューチャーでは AI に特化した専門組織「AI 戦略推進グループ」を中心にリサーチエンジニアや AI エンジニアを積極的に育成・採用し、自然言語処理および生成 AI の学術研究・研究開発を進めています。2024 年には国内生成 AI の開発力強化プロジェクト「GENIAC」^{※2}の支援を受け、「日本語とソフトウェア開発に特化した基盤モデル」を一般公開しました。2025 年からは、社員の博士号取得を支援する社会人ドクター支援制度「Future PhD Support Program」^{※3}を導入し、AI をはじめ先端技術人材の育成を加速しています。また、研究開発のみならず主要事業会社のフューチャーアーキテクト(本社:東京都品川区、代表取締役社長:谷口友彦)とともに、AI 社会実装ナンバーワンカンパニー^{※4}を目指し、お客様の経営やビジネスに貢献する AI の導入も加速させています。

今後も最先端の研究と科学的なコンサルティングアプローチでお客様の業務とシステムをトータルにデザインし、新たな価値を創造します。

※1.「ACL2026」公式サイト:<https://2026.aclweb.org/>

※2.GENIAC https://www.meti.go.jp/policy/mono_info_service/geniac/index.html

NEDO 採択事業 https://www.nedo.go.jp/koubo/IT2_100331.html

「日本語とソフトウェア開発に特化した基盤モデル」公開 URL

<https://huggingface.co/future-architect/Llama-3.1-Future-Code-Ja-8B>

※3.フューチャー、社会人ドクター支援制度「Future PhD Support Program」を導入

https://www.future.co.jp/press_room/PDF/PressRelease_FuturePhDSupportProgram_250423.pdf

※4. フューチャー、AI 社会実装 No.1 カンパニーを目指しステートメントを発表

「AI 駆動開発」による生産性 3 倍と AI×IT のトータルデザインにより社会課題解決を加速

https://www.future.co.jp/press_room/PDF/PressRelease_FUTURE_AIstatement_20260430.pdf

■お問合せ先

フューチャー株式会社 広報担当:清水、石井

TEL:03-5740-5721

お問い合わせフォーム : https://www.future.co.jp/apps/contact/corp/press_interview_entry.php